



## 新年のご挨拶

新年を迎えました。新型コロナウイルスの感染が広がっていること、また私たち自身や身近な人が、感染のリスクにさらされ続ける中で、新たな一年を歩みだしています。柏市も感染者が増加傾向にあることを心配していますが、法人よつば関係では利用者や職員やその家族の人たちが、専門家が勧める予防対策を、努力しておられることもあって、感染者は出ていません。「ワクチン接種」が現実のものとなって、外出・移動やイベント開催が増えてくることを心待ちにしています。11月末に法人の定期理事会が開かれ、前期半年の事業と財務報告があって、運営の福祉会計は堅調ですが、生産・販売の授産会計はイベント中止や自主製品の売り上げが減少し、赤字の状況です。利用者・入居者の方たちが、感染や外出不安を敏感に感じ取り、心身の不調を起こさないよう見守りが求められています。年末年始休み期間もこれまでと違う緊張があります。

### ☆就労継続支援B型「青い鳥」

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、国からの休業要請を受けた建物での、オリジナル製品の販売が困難になりました。また、自粛期間が明けてからも建物自体への入場制限もあって、なかなか自主製品の売れ行きが芳しくありませんでした。

このような情勢の中にあっても、「はぴねす」のクッキー及び「ことり」の押し花カレンダーなどの製品を、青い鳥に通われている利用者の方たちが、心を込めて作製してくれました。

よろしければ是非、お手に取って買い求めて頂けると感謝です。(電話 04-7199-8119)

### ☆販売・営業の案内

- ・「青い鳥」では、新年のカレンダーやクッキーの販売をしています。
- ・「かるのこ」では、お弁当(550円)の販売をしています。
- ・「キッチンよつば」では、定食や喫茶を、初石公民館で営業しています。



### ☆青い鳥・利用者インタビュー Sさん

新型コロナによる不安は、緊急事態宣言により、生活のリズムが崩れ、体調の変化が起きました。朝起きて、疲れが取れなかったりしていました。青い鳥が休みの1か月という期間は、外に出ることも少なく、家の中で暇な時間を過ごすことになり、その時間が苦痛に感じられました。ですからこの新しい一年は、新型コロナがあっても、いつもと変りない生活を送り

たいと思います。

### ☆体験談・流山市在住インタビュー Lさん

#### ① 最初、作業所は嫌いでした

私はグループホームに入居したのをきっかけに流山市に引っ越しました。両親と一緒に暮らしていた時に、作業所(就労B)に通っていましたが、そこで他の利用者ともめて、止めてしまっていました。ですからグループホームに入るとき、日中活動をするように言われても、作業所は行きたくありませんでした。しかし、結局作業所が近かったため、通所することになりました。最初はすごく嫌でしたし、すぐ止めるつもりでした。ところが行ってみると、嫌な思いもせず、利用者の人に気の合う人が見つかりました。私は病気になってから、知り合いがだんだん少なくなり、人付き合いを避けていましたが、今では作業所でも、グループホームでも知り合いが増えてきました。一緒に出掛けることもあります。環境が変わったことで、家族とももめずに済みます。引っ越したことは、最初は大決心でした。

#### ② 発病は学生の時

私の発病は大学生の時です。馴染めずに、結局一年で辞めました。でも、実際に発病していたのは、高校生の時からだと思います。幻聴もありましたし、被害妄想もありました。それで一人が好きでした。学校を休んだ時は、親ともめました。大声も出したし、物も投げました。大学に行けば何とかなると思いましたが、何ともなりません。友達もできず、家族とも揉

めて、とても孤独でした。なんで自分が病気になったのかと、いつも不満と不安を抱えていました。あの時期はつらかったです。



### ③ 生きがい探しの今

辛かったときは、自殺を考えたり、親を恨んだり、自分の境遇を嘆きましたが、今では焦る気持ちが少しずつ減ってきました。同世代の人を思うと寂しくなりますが、人は人、自分は自分と思うようにしています。世の中のルールからは、外れていますが、自分なりの生き方を探しています。先生からは薬は一生飲むことになることと聞きました。大学には戻れないし、一般就労も難しいでしょう。でも、出来ることはあるし、幸せにもなれます。

今考え始めているのは、自分なりの幸せ、生きがいを見つけることです。まだ人生がたくさん残っていますので、何か持ちたいと思います。

## ☆家族の想い・流山市のKさん（インタビュー）

### ① 小さい頃から物静かで良い子でした

流山市に引っ越してきたのは、のちに統合失調症になった息子が小学生の時です。私たちには娘もいて、その娘は結婚して他市で暮らしています。息子は、小さい時から物静かで優しい子でした。反抗期がほとんどなかったと思います。病気になってからも、暴言を吐いたり、暴力をふるったりもしていません。優しい子ですが、かえってそれが本人を苦しめたのかもしれない。ストレスを外に向けていれば、病気に早く気づけたのではと悔みもします。ただ頑固なところと、友達が少なかったのが今気づくことです。

### ② 中学生から人間関係を避けるように

中学生になって、様子が変わりました。学校に行くのを嫌がったり、家族と口を利かないことが増えました。学校ではいじめられるよりも、一人ぼっちになってしまいました。本当はとても優しい子どもです。学校の先生も心配していただきましたが、人間関係は良くなりませんでした。それでも卒業し、私立の高校に通いました。何とか卒業しましたが、就職への気力体力はありませんでした。高校までよく頑張ったと思います。高校の時に、精神症状が現れ、幻聴や不眠に悩まされました。入院はしませんでした。服薬が始まりました。それ以来、これ迄20年以上服薬しています。薬は嫌ですが、助けられてもいます。

### ④ 病院の紹介で家族会を知って

自宅から近い病院に通院しましたので、お世話になった先生から、家族会の紹介を受け、流山市にも相談しました。家族会のよつば会を知ったのはその時です。いつも家族会に出席できたわけではありませんが、今まで続けてきました。この病気のことは誰にでも話せるわけではありませんので、家族会には支えられました。必要な情報や勉強もできました。途中パートの仕事に就いたのも、気持ちを切り替えるのに役立ちました。息子は病気のために苦しみ、多くの夢を諦めましたが、不思議なことに愚痴や不満を言いません。私より人間が出来ているのですね。

### ④ 年老いた私たちの気がかり

今、私たち両親も歳をとり、これから先何年息子を見守れるか分かりませんが、息子はグループホームに関心を持ってきています。仮に、自宅で暮らすにしても、この家は息子に残してあげたいと思っています。必要なのは相談相手です。幸い行政にも行けますし、知っている職員もいます。また、以前から知っている福祉の職員もいますので、その方たちと相談してくれればと話しています。困ったときに助けを求める人が頼りです。

## ☆精神障害者家族会よつば会 定例会の紹介 (問い合わせ 04-7199-3645)

<柏部会>

- ・1月30日土曜 13時から
- ・パレット柏 3階ミーティングルームB

<我孫子部会>

- ・当面、コロナの関係で、会場が閉鎖されているため柏部会に合流します

<流山部会>

- ・1月22日金曜 10時から
- ・初石公民館 第1和室にて



家族会では「親亡き後の子どもの生活」がいつも話題になります。そこで、最近出版された本を紹介します。ご活用ください。

- ・親亡き後に困らないために今出来ること (PHP 研究所、鹿野・明石共著、2020.10)
- ・障害のある子の将来のお金と生活 (自由国民社、渡辺伸著、2020.9)